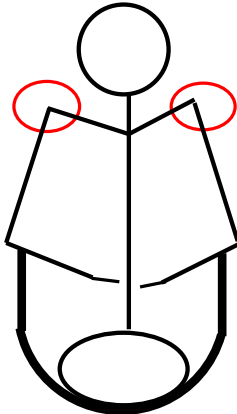


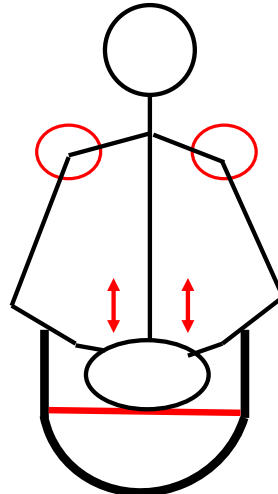
3-4. 座面の安定

座面の安定



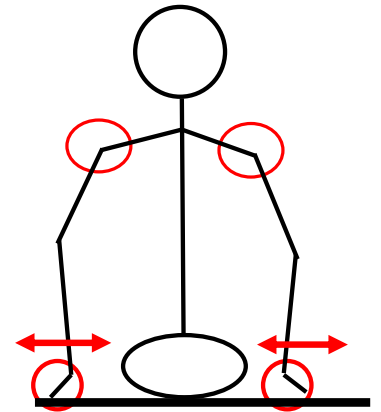
たわんだ座面

- ・肘をアームレストに乗せると肩が挙上（上がる）してしまう
- ・胸郭の運動が制限され
- ・呼吸機能の抑制が起こる



車いすにベニヤ板を入れた座面

- ・座面が上がることで肩関節の制限がなくなる
- ・胸郭の運動制限がなくなる
- ・呼吸機能の制限がなくなる
- ・片側の臀部を持ち上げられる



横幅を広くした座面

- ・左右に手をつくことで臀部を持ち上げられる
- ・横への移動ができる
- ・背もたれがないので後ろを振り向くことができる

みなさんご存じですか。車椅子の功罪について。

はじめに申し上げておきますと、車イスは移動する道具であって、生活をする道具ではありません。車椅子を日常的に使い続けることで機能はどんどん失われていきます。

前述したとおり車椅子には背もたれがあるために、背もたれに寄り掛かってしまいます。結果ずり落ちてきます（その手前で座り直しをするでしょう）。また、レッグレストがついていれば下腿を体幹側に曲げることができませんから、立ち上がる能力を奪います。体重は骨盤にかかるため下肢の筋力は使われませんから筋力は低下します。腹筋や背筋も背面開放座位に比べ弛緩しています。繰り返しになります。体感をねじる運動も制限されます。頸部の運動も制限されます。

車イスに座っている人がアームレストに肘を乗せると、ほとんどの人は肩が挙上します。肩が挙上するということは、背もたれで胸郭が固定されることも加わり、胸郭の運動が制限されます。つまり深呼吸できない状態になります。呼吸が浅くなるということは日常生活で横隔膜や肋間筋を十分に使わないため、誤嚥をした時の咳反射が弱くなります。誤嚥したものを上手く排出できず肺炎を起こすリスクが高まります。

車いすの背もたれより後ろに頭部がきている利用者をみたことはありませんか。体力が低下し筋力も低下すると、頭部が頭部の重さを頸部の筋力では支えられず後屈していききます。

私たちが意識的に首を後屈してストレッチするのとは全く違います。この状態で頸部は拘縮していききます。首が固まった状態で、前後、左右に動かなくなあります。首を回すことができなくなります。こうなると食べることの章で説明しますが、食べることができなくなります。

もうひとつ、車椅子の座面（座るところの面）は折りたためる布でできています。（ひとつだけ金属板でできたものを見たことがあります）

布製の為、座るとたわみます。この状態では図のように片側のお尻が上げられません。次の図のように板状になってたわまなければ、お尻の片側を上げることができます。

お尻の片側が持ち上げることができると、排せつ後にお尻を拭くことができるようになります。左右の尻を交互に持ち上げられれば座り直しができるようになります。

このため、しょうわの車イスはあえて折りたたむ機能を捨てて座面にベニヤ板を敷いています。

さらに言うと車イスにベニヤ板では左右の移動ができませんが、畳台にすることで左右に移動することができるようになります。